

視点3 内容項目名・生命尊重 (内容項目番号 3-(1))

資料名 「はるかのひまわり」

(出典 日本標準「みんなで考える道徳」4年)

1 学習指導案

小学校 中学年 道徳学習指導案

(1) 主題名

命の大切さ

(2) ねらい

災害にあった人々の思いや残された人々の思いを感じ、自他の生命を大切にし、精一杯生きていこうとする意欲と態度を養う。

(3) 主題設定の理由

第3学年、及び第4学年の指導内容3-(1)は、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする」をねらいとしている。この時期の児童は、現実性を持って死を理解できるようになる。3月11日の東日本大震災を経験し、子ども達は生命の大切さや家族をはじめ人の温かさを強く感じる事ができた。生命はたった一つであり、限りがある。毎日のように報道される大震災のニュースは、これまで生きていたことを当たり前のこととらえていた子ども達に、生命の重さ、生命の唯一性、有限性を実感させたに違いない。

しかし、いつまでも過去の悲しみにとらわれていては前に進むことはできない。このような時期だからこそ、家族を失った悲しみと共に、悲しみを乗り越えて精一杯生きることのすばらしさについて児童に感じ取らせていきたい。そして、生命を大切にすることは、「せいっぱい生きること」であることに気付かせ、一日一日を大切に希望に向かって力強く生きようとする気持ちを育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(4) 展開

	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 7分	1 東日本大震災の被害の大きさを確認し、被災者の気持ちを想像する。 2 16年前の「阪神淡路大震災」について知る。	・大きな津波がきて、多くの人がなくなった。 ・家族を亡くした人は悲しい思いをしている。	○震災の新聞記事を提示し、被害の大きさを思い出させる。 ○阪神淡路大震災の被害がわかる写真を示す。
展開 33分	3 「はるかのひまわり」を読み、いつかの気持ちを中心に考え、話し合う。 ○いつかさんはどうして「もういやや。地震もはるかの思い出も、ひまわりもいや。なんもかもはこにつめて、海の底へしずめてしまいたい」と思ったのだろうか。	・妹はもう帰ってこない。 ・地震も妹・はるかのことも、悲しいことはみんな忘れてしまいたい。 ・妹のことを思い出すひまわりなんか見たくない。	○妹を亡くした姉のつらい気持ちに十分共感させる。

	<p>○いつかさんは、どうして全国の小中学生に地震の体験を話すようになったのだろう。</p> <p>○講演の最後にひまわりの種を配る時、いつかさんは何を伝えようとしているのだろう。</p> <p>4 東日本大震災の被災地にも「はるかのひまわり」7万粒の種が送られていることを知る。 ○「はるかのひまわり」の種には、どんな思いが込められているのだろう。</p> <p>5 「はるかのひまわり」の種をうけとり、今感じていることを中心にいつかさんへの手紙を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つらいのは、自分だけじゃなかったと気付いた。 ・地震の後たくさんの人が私たちを支えてくれたことに気付いた。 ・今、自分にできることをするのが、「生きる意味」だと思ったから。 ・ひまわりを見て、みんなに元気になってほしい。 ・いつ何が起こるかかわからない。みんな命を大切にしてほしい。 ・ひまわりの花を見て被災地の人に元気になってほしい。 ・「みんなが東北の人々の復興を支えていくよ」というメッセージを送りたい。 	<p>○町の復興に、たくさんの人々の応援があったことを補足する。(NPOの活動等)</p> <p>○生きることに前向きになったいつかの変化に十分共感させる。</p> <p>○阪神淡路大震災後の定点写真やひまわり畑の写真を提示し、復興させていく人間の力強さに気付かせ、希望を持たせたい。</p> <p>○東北の被災地にも「はるかのひまわり」7万粒の種が送られているという新聞記事を紹介する。</p> <p>○「はるかのひまわり」の種を紹介し、配付する。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>6 教師の話聞く</p>		<p>○講演で語るいつかさんの思いを児童に伝える。</p>

2 本事例の活用に関する留意点

(1) 資料について

今回の大震災はあまりに大きな出来事であり、また、いまだに余震が起こっている状況であるため、地震を題材にした資料の扱いは慎重に考えるべきである。児童の様子をよく把握した上で本資料を扱うことが望ましい。

命の大切さを悲しい出来事を通してとらえるだけでなく、周りの人々とふれあい、つながりながら、悲しみを乗り越えて希望を持って、今自分にできることをすることが「命を大切にすること」となると気付かせていくことが大切である。

(2) 授業の指導ポイント

① 導入

16年前にも阪神淡路大震災という大きな地震があったことを知らせ、東日本大震災と結び付けて考えられるようにする。被害の詳細にはふれず、悲しい思いをした人々が数多くいたことを押さえる。

②展開

いつかさんの悲しみや、やりきれない思いに十分共感させることがポイントである。深い悲しみから立ち直るには、多くの人々の温かい心と支えがあったことに気づき、生きることによって希望をもてるようになったいつかさんを通して、自分にとっての「生きる」について考えさせたい。そのためには、「希望の灯り」等、被災した人々を支える様々なNPOの活動があったことを必要に応じて補足することが望ましい。

展開後段では、阪神大震災後の神戸の復興の様子が見える写真を提示し、人々の努力で大きな被害と深い悲しみから立ち直ることができるという希望を持たせた上で、今の自分の心と向き合わせたいと考える。また、東日本大震災の被災地に送られた「はるかのひまわり」の種に込められた多くの人々の温かい思いにふれさせたいと考える。

③終末

広がる「はるかのひまわり」の活動といつかさんの思いを紹介し、余韻を持って終わる。

3 道徳教材（素材について）

対 象	小学校中学年
主 題 名	大切な命
ね ら い	災害にあった人々の思いや残された人々の思いを感じ、自他の生命を大切に、精一杯生きていこうとする意欲と態度を養う。
学 習 活 動	<ul style="list-style-type: none">○ 資料「はるかのひまわり」を読み、阪神淡路大震災で妹を亡くしたいつかさんの悲しみに共感するとともに、全国の小中学校で自身の体験を話せるようにまでなったいつかさんの心の変化について考え、「生きる」ことの意味や希望を持つことの大切さについて気付く。○ 小中学校での講演でいつかさんが子ども達に伝えたいことは何か考える。○ 東日本大震災の被災地に送られた「はるかのひまわり」の種に込められた思いについて考える。
<p>【素 材】 「はるかのひまわり」（日本標準「みんなの道徳 4」） 1995年に起こった「阪神淡路大震災」における実話である。 夏になると神戸市東灘区では「はるかのひまわり」と呼ばれるひまわりがたくさん咲く。震災の犠牲になった「はるかちゃん」が、かわいがっていたオウムのえさが芽を出して花を咲かせたのだらうと考えた人たちが「はるかのひまわり」と名付け、広めていった。がれきの後に咲いたひまわりは、神戸の人々を励まし、勇気づけた。 「阪神淡路大震災」で妹を亡くした「いつかさん」は、その妹を亡くした悲しみの深さから、ひまわりやはるかの思い出から目をそらし、心を閉ざしてしまう。しかし、いつかさんは周りの人とふれあいながら、悲しみを乗り越え、人々とのつながりを感じ、「生きる」ことの意味を見いだし、そして、全国の小中学校で地震の体験談や、「命の大切さ」について子ども達に伝える「はるかのひまわり」の活動を始める。</p>	